

第84期  
中間

ビジネスレポート

平成18年4月1日 ~ 平成18年9月30日

We are  Sound

「聴く」という「ときめき」を大切に。



**ONKYO**  
IMAGINATIVE SIGHT & SOUND

証券コード 6729

## デジタルホーム時代のリーディングカンパニーへ向けて ONKYOが動き出しました。

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年、ONKYOは創業60周年を迎えることができました。  
これも、株主の皆様をはじめ取引先、ユーザー、その他関係者の皆様からのご支援の賜物と深く感謝いたしております。

半世紀を超えるONKYOの歴史のなか、オーディオ業界ではレコード／カセット全盛の時代が終わり、  
CD／MDを経て新たな時代が始まろうとしています。  
ONKYOは上半期、この新たな時代、デジタルホーム時代におけるリーディングカンパニーへ向けた布石として  
さまざまな施策を積極的に推進してまいりました。  
フラッグシップモデルとなるPCアーキテクチャーを取り入れたHDメディア・コンピューターの発売と高品質音楽配信事業の拡大。  
そして、音楽メディアの変化とともに多様化する顧客ニーズに対応し、PCとの親和性やデジタルオーディオプレーヤーとの接続性を  
高めた新製品を投入してまいりました。

ONKYOは、長年に亘って培ってきたスピーカーやアンプのアナログ技術、デジタル技術、D/A変換技術に加え、  
PCおよびインターネット技術を融合させて、新たな時代のニーズを先取りする先進的な新製品を展開し、  
デジタルホーム市場を開拓してまいります。

新たな時代のリーディングカンパニーへ向け、ONKYOが動き出しました。  
今後とも変わらぬご支援を賜りたくお願い申し上げます。

代表取締役会長兼社長 お お つ き な お と **大 舘 直 人**



## Management Guidelines 経営指針

### 1. Global Business with Localized Products

オンキヨーは世界の市場で、それぞれの  
地域のお客様に最適な商品を提供  
し続けます。

### 2. IMAGINATIVE SIGHT & SOUND®

オンキヨーは「映像と音」を媒介として、  
世界の人々の快適な「空間と時間」を  
創造します。

### 5. Proper Management

CS（顧客満足）の追求によりブランド・  
イメージの向上を図り、常にブランド力の  
強化に努めます。売上高至上主義、  
市場占有率優先主義を排し、高付加価値、  
利益優先主義に徹します。良質の保守主義を  
基本とし、連結ベースで経営効率の向上を  
図り、利益とフリー・キャッシュの最大化を  
目指します。

### 4. In Harmony with the Environment

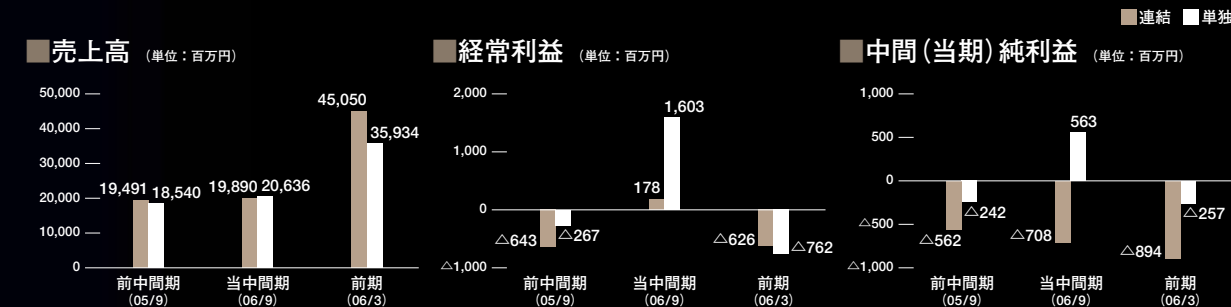
オンキヨーは地球環境の保全が人類  
共通の重要課題であることを認識し、  
「環境との共生、調和」をスローガンと  
して、積極的に環境保全に配慮した  
企業活動を行います。

### 3. Quality Advancement of Products and Services

オンキヨーは展開する商品・サービス  
に関し、常に業界最高水準の品質を  
維持し、その基本となる品質管理  
システムの強化、向上に努めます。



## 財務ハイライト





Interview

## ONKYO AVC事業の方向性を語る

オーディオ・ライフスタイルを一変させた「ネット配信」、「DAP」。オーディオ市場という枠を飛び越えた“新しい発想によるONKYOのこれから”をテーマに取締役常務執行役員 AVC事業本部長 廻戸正昭氏に語っていただきます。

取締役常務執行役員 AVC事業本部長  
まわりど まさあき  
廻戸 正昭

**Question**  
大きな変革期に差し掛かっているオーディオ市場をどのように分析していますか？

これまでONKYOにとって、オーディオ市場といえばオーディオ機器やホームシアター製品こそが全てでした。しかしながら、PCとインターネットの普及により、デジタル化された音楽の楽しみ方が多様化し、音楽配信の普及とともにデジタルオーディオプレーヤー（DAP）が大流行しています。さらには携帯電話にもオーディオ機能が付加されるなど、従来の見方では捉えきれない新たなオーディオ・ライフスタイルが生まれています。世代や趣向に合わせたオーディオ・ライフスタイルが拡大しているのです。このような市場

の変化により、CD/MDが一体となった従来型のミニコンポは低迷を余儀なくされています。

私たちONKYOは、これまでの商品スタイルだけに固執せず、ユーザーのニーズに合わせた商品の提供や、先進技術を取り入れた付加価値の高いアイテムの提案などにより、快適な空間をお届けしていきたいと考えています。

**Question**  
この上半期における商品展開についてお聞かせください。

この上半期は、これからの市場に向けてのマーケティングを行い、戦略的な製品を開発し発売しました。ユーザーが満足する品質に留意するとともにさらなる音の追求を図り、高い

## We are HD Sound

オンキヨーの「原音」へのこだわり。



CR-D1

DIGITAL

付加価値を提供すべく、「DAPとの連動」や「PCとの親和性」、「快適な操作性」などを備えた戦略商品を市場に投入しました。具体的には、次のような商品です。PC技術とオーディオマインドが融合したHDメディア・コンピューター「HDC-7」は、まさにこれから来るデジタルホーム市場を開拓すべく発売しました。また、CDやiPodなどの再生機能に特化したスタイリッシュ1BOXオーディオ「X-T1DSC」やハードディスク搭載オーディオ、さらにDAPやPCとお手持ちのコンポとの連動を実現する周辺機器などを、若年層やPC、DAPユーザーへ向け発売しました。さらに、団塊の世代へ向け、ハイファイ回帰となるコンパクトオーディオとスピーカー「CR-D1」、「D-112E」もご好評をいただいています。なお、この上半期に好調だったアメリカ市場では、主力の中

級レシーバーに、従来、高級機種にのみ搭載されていた「HDMI=AV機器との連動インターフェイス」を搭載し、高い支持を得ました。

**Question**  
下半期にも新たな戦略商品の発売を予定しているようですが、どのような商品展開となるのでしょうか？

上半期に引き続き、「DAPとの連動」や「PCとの親和性」にすぐれ、ユーザーのニーズにお応えできる戦略商品をクリスマス商戦に向け発売いたします。一つは、1BOXの本格オーディオ「AERO Sound System（エアロ・サウンドシステム）/CBX-Z1」です。このCBX-Z1は、持ち



運びに便利なコンパクトスタイルでありながら、本格オーディオとしての高品位なサウンドを備えたものです。さらに、増加するiPodユーザーへ向けの専用ドック搭載やスタイリッシュなデザインなど、必ずや若年層やPC、DAPユーザーに受け入れられることと思います。

二つ目は、「AVC」の「C」であるPCの技術で創り出す新たな“真のオーディオ”です。まだ開発段階ではあるのですが、PCが進化、発展していくのにあわせ、AV機器では持ち得なかったPCの性能・機能を取り込んだ、新たなオーディオPCを展開していく予定です。

今日、ハードのみに依存したこれまでのAV機器の流れは弱まり、PCや携帯電話など、インターネット、通信、コンテンツ配信を含めた情報化の波が押し寄せてきています。そして、オーディオは、必ずしもオーディオ機器である必要はなくなってきているのです。デジタルホーム市場においてさらなる商品展開を図るため、当社は上半期にデジタルホーム・プロジェクトを発足し、開発を進めております。

**Question**

ONKYOが目指すポジションは何処なのでしょう？

ONKYOは、すでに競合他社とは一線を画するポジションにあると思っています。創業以来、一貫して「いい音」と「感動」を追求する文化は、他社との大きな差別点です。他社では、スピーカーはスピーカー、アンプはアンプとして別々の企業で開発を進め、それを組み合わせて製品化していますが、当社は自社でスピーカーもアンプも開発している強みがあります。別々ではなく合わせて自社で開発するからこそ、音質のさらなる追求が可能となるのです。

さらに、PC技術に対する取り組みのスピードや商品化の早さも当社の強みです。2006年のHDメディア・コンピューター「HDC-7」や2007年からの新しいオーディオPCの提案を出発点として、他社に先駆けて、PC技術をベースとしたNEWオーディオを提案していきます。

先に述べたデジタルホーム・プロジェクトは、社内横断的に開発、設計、営業を含めた社内横断的な組織として、多様なコンテンツや音源データのすべてに対応した高品質再生の実現を目指します。これによって、PCだけでなくデジタルAV家電とも親和性が高く、マニアからリビングまでをカバーする満足度の高い商品を提供して、新たな市場を作っています。

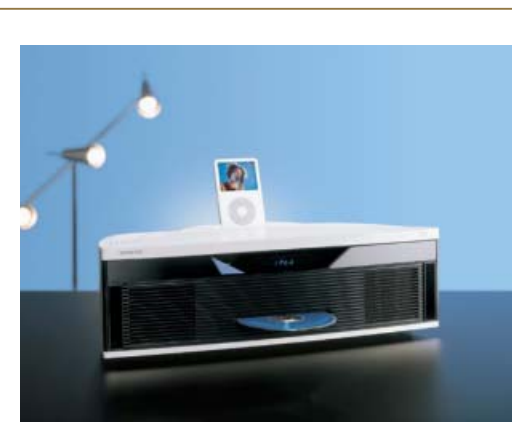
**Question**

ONKYOの本当の強みとはなんなのでしょう？

ONKYOは今、「We are HD Sound」をスローガンにしています。このHD Soundとは、High Definitionとして一般的に高分解能、高密度などを意味しますが、決して数値的なハイスpekのみを表しているわけではありません。絶え間ない技術革新の進むAVC業界において、オーディオの永遠の命題である原音質と感動を目指します。

このようなサウンドに対する思いが経営トップから各社員まで浸透しており、なおかつ長年に亘って培われ継承されてきた技術、ノウハウ、そして原音質を理解する感性を有していることは、当社としての最大の強みです。音と映像とPCが融合する本当の意味でのAVC製品の開発は、すべてのソリューションが揃っているONKYOの役割だと自負しています。この強みによって、ONKYOは、音楽の配信から受信、再生する端末、アンプ、スピーカーにいたるまで、CDレベルにとどまらないHDサウンドでトータル的に提供できるのです。

私たちは、世界中の人々に快適なサウンドと感動をお届けすることを社会的使命と考えています。今後もこれからの市場に、チャレンジし続けるONKYOに対し、株主様からのさらなるご支援を頂戴いたしたくお願い申し上げます。



AERO Sound System  
**CBX-Z1**

**AERO Sound System**

お気に入りのCDを思う存分、いい音で楽しむ。iPodをドッキングさせれば高性能なミュージックサーバーが誕生する。待望されていた新世代のオーディオシステムをオンキヨーが実現しました。リビングはもちろん、いままで本格オーディオが置けなかったベッドルームやキッチンなど家庭内のさまざまな空間を豊かな音楽再生で包み込むこと。そういった想いと、本格再生を実現した独自技術「エアロ・アコースティックドライブ」にちなみこのあたらしいオーディオを「AERO Sound System」と名付けました。  
エアロ・サウンドシステム

オンキヨーとインテルの共同開催!

We are  Sound

# 「ニューイヤー ガラコンサート」のご紹介&プレゼント

ONKYO & Intel Present New Year Gala Concert



ONKYO & Intel PRESENT

新春を彩る音楽の花束!  
「誰も寝てはならぬ」ほか名曲揃いの  
エキサイティングなコンサート!!

水口聡プロデュース  
オンキヨー&インテル  
**ニューイヤー  
ガラコンサート**

2007/1/14 (日)午後2時開演  
東京オペラシティコンサートホール  
1-10-6, Sendai Bldg. 1st Fl. of Mitsui Orix City Centre Hall  
駐在 東京フィルハーモニー交響楽団 指揮 東京アカデミッシュカペレ

J.シュトラウス:喜歌劇《こうもり》序曲  
ブッチーニ:歌劇《トゥーランドット》より  
「誰も寝てはならぬ」  
ビゼー:歌劇《カルメン》より「ハバネラ」「闘牛士の歌」  
ブッチーニ:歌劇《マノン・レスコー》より 間奏曲 ほか

出演者  
水口 聡 テノール/プロデューサー  
伊原直子 メゾソプラノ Y・コダーイ ソプラノ  
田中三佐代 ソプラノ 泉 良平 バリトン  
時任康文 指揮 朝岡 聡 司会  
管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団  
合唱:東京アカデミッシュカペレ

★車椅子の方は、事前にジャパン・アーツびあにお問合わせください。

オンキヨーとインテルは、「デジタル・エンターテインメントの基盤となるインテル® Viiv™ テクノロジーの普及促進」、「オンキヨーの“原音”へのこだわり “We are HD Sound” の実現」ならびに「音楽文化への貢献」を目的に、「オンキヨー&インテル ニューイヤー ガラコンサート」を開催します。

## コンサート 概要

- 日時 2007年1月14日(日) 午後2時開演
- 会場 東京オペラシティコンサートホール  
〒163-1403 東京都新宿区西新宿3-20-2

## ●出演者

水口 聡 テノール/プロデューサー  
伊原直子 メゾソプラノ Y・コダーイ ソプラノ  
田中三佐代 ソプラノ 泉 良平 バリトン  
時任康文 指揮 朝岡 聡 司会  
管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団  
合唱:東京アカデミッシュカペレ



Photo: K. Miura

## ●主要プログラム

J.シュトラウス:喜歌劇《こうもり》序曲、ブッチーニ:歌劇《トゥーランドット》より“誰も寝てはならぬ”  
ビゼー:歌劇《カルメン》より“ハバネラ”“闘牛士の歌”、ブッチーニ:歌劇《マノン・レスコー》より間奏曲 ほか

- 入場料 S席6,000円、A席5,000円、B席4,000円

## ●お問合わせ・お申込み

- ジャパン・アーツびあ (03) 5237-7711 www.japanarts.co.jp/
- 東京オペラシティチケットセンター (03) 5353-9999 pia.jp/t
- 電子チケットびあ 0570-02-9990 ●CNプレイガイド 0570-08-9990
- イープラス eplus.jp ●東京文化会館チケットサービス (03) 5815-5452
- ラテーザ (03) 5436-8900

★車椅子の方は、事前にジャパン・アーツびあにお問合わせください。

## 株主様 特別プレゼント

### 「オンキヨー&インテル ニューイヤー ガラコンサート」チケットプレゼント!!

当ビジネスレポート巻末の株主アンケートにお答えいただいた株主様の中から抽選で5組(10名)様に「オンキヨー&インテル ニューイヤー ガラコンサート」のペアチケットをプレゼントいたします。  
※詳しくは、P14の応募方法をご参照ください。

# Financial Section

財務報告書

## Corporate Profile (平成18年9月30日現在)

■ 商号 オンキヨー株式会社  
■ 設立 1946年9月17日  
■ 本社 〒572-8540  
大阪府寝屋川市日新町2番1号  
■ 資本金 14億7,617万6,000円  
■ 従業員数 396名  
(グループ従業員数 3,619名)

■ 東京オフィス  
■ 開発センター  
■ オンキヨー物流センター  
■ A V C 営業 (北海道、東北、首都圏、中部、近畿、中四国、九州)  
■ O E M 営業 (東日本、西日本)  
■ インストール営業 (東日本、中部日本、西日本)

## ■ 連結子会社

国内: 鳥取オンキヨー株式会社、オンキヨーエレクトロニクス株式会社、プラス産業株式会社、オンキヨーマーケティング株式会社、ビジネスネットワークテレコム株式会社  
海外: ONKYO ASIA ELECTRONICS SDN.BHD.、ONKYO U.S.A.CORPORATION、ONKYO EUROPE ELECTRONICS GMBH、上海安橋国際貿易有限公司、ONKYO ELECTRIC (MALAYSIA) SDN. BHD.、上海安橋電子有限公司、中山福朗声紙盆有限公司

## ■ 持分法適用関連会社

国内: 株式会社CO3、DO株式会社 海外: ONKYO CHINA LTD.、広州安橋貿易有限公司

## Review of Operations 営業の概況

当中間連結会計期間における当社グループの売上高は、前年同期比3億98百万円増収の198億90百万円となりました。A V C事業では、大きな構造変革期を迎え市場全体の縮小傾向が続くなか、当初見通しを上回る売上高となりましたが、前年同期比では減収となりました。一方O E M事業では、顧客の販売好調にともなう受注増により業績が大きく伸張し、A V C事業をカバーする増収となりました。

損益につきましては、新しいコンセプトによる新商品を積極的に市場投入するなど、高付加価値商品へのシフトを推進した結果、売上総利益率が改善しました。さらに、構造改革による固定費削減の効果などにより、経常利益は前年同期比8億22百万円増益の1億78百万円となりました。また、特別損失として、株式会社ギャガ・コミュニケーションズ株等の投資有価証券評価損6億72百万円、構造改革関連費用1億80百万円および米国での訴訟関連費用1億32百万円など9億96百万円を計上した結果、税金等調整前中間純損失は8億11百万円、中間純損失は7億8百万円となりました。

### AVC事業

A V C事業の売上高は、前年同期比6億65百万円減収の133億97百万円となりましたが、損益については、売上総利益率の改善と販

売費及び一般管理費の削減により前年同期比6億37百万円増益の3億25百万円の営業利益となりました。

日本市場は、引き続きミニコンポ市場全体の縮小と低価格化の傾向が継続しており、MD搭載ミニコンポなど普及価格帯に近い商品群で単価の下落と数量の伸び悩みにより苦戦を強いられました。しかし、団塊の世代に向けてハイファイ品質を訴求した、コンパクトハイファイオーディオ「CR-D1」、コンパクトスピーカー「D-112E」や、デジタルオーディオプレーヤー連動およびP C親和性を高めたデジタルホーム時代のさきがけとなる、スタイリッシュ1BOXオーディオ「X-T1DSC」、大容量80GBハードディスク搭載HDDコンポーネント「BR-NX8」、U S Bデジタルワイヤレスシステム「UWL-1」などを市場導入した結果、売上高は54億98百万円となり前年同期比2億99百万円の減収にとどまりました。

一方、フルサイズA Vレシーバーを中心とする米国市場での売上高は、7.1ch A Vレシーバー「TX-SR504」、「TX-SR604」などに代表される普及価格帯新製品にH D M I接続機能を搭載するなどの差別化により販売が好調に推移するとともに、より付加価値の高いカスタムインストーラー向けブランド「Integra」のA Vレシーバー「DTR-4.6」などが売上を伸ばし、前年同期比2億22百万円増収の58億37百万円となりました。欧州市場においては、直販体制に移行したイギリス、ドイツ、オーストリアの販売体制が続伸する一

方、代理店地域では在庫水準の適正化を目的とした在庫調整を進めたことにより、売上高は前年同期比5億30百万円減収の11億38百万円となりました。中国を中心とするアジア市場におきましては日本市場と同様にミニコンポの市場が縮小するとともに、A Vレシーバーの売上も伸び悩み、前年同期比58百万円減収の9億23百万円となりました。

### OEM事業

O E M事業の売上高は、顧客の販売好調による受注増により、車載用スピーカーが堅調に推移するとともに、携帯ゲーム機器向けマイクロスピーカーや薄型テレビ向けスピーカーおよび石油探査センサーの受注が大幅に拡大し、前年同期比12億17百万円増収の54億89百万円となりました。また、損益面におきましても、前年同期比2億83百万円増益の1億68百万円の営業利益となりました。

### 不動産賃貸事業

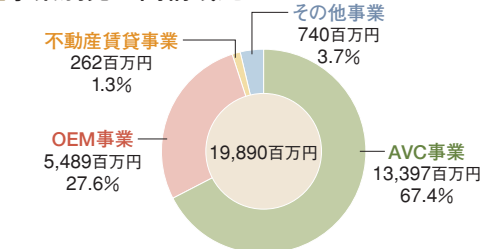
不動産賃貸事業の売上高は、スポーツクラブに賃貸していた物件

を平成18年3月に売却したことにより、前年同期比65百万円減収の2億62百万円となりました。営業利益は、前年同期比16百万円減益の1億72百万円となりました。

### その他事業

その他事業の売上高は、前年同期比88百万円減収の7億40百万円となり、損益は前年同期比46百万円増益の営業利益17百万円となりました。

### 事業別売上高構成比



## TOPICS トピックス



### オンキョーマーケティング株式会社 ONKYO MARKETING CORPORATION



<http://onkyo.jp/>

### e-onkyo music



<http://music.e-onkyo.com/>

### DAPやPC、音楽配信を意識した新商品を展開!

オンキョーは、iPodなどのDAP（デジタルオーディオプレーヤー）の台頭やPC、音楽配信の普及により変革期にあるオーディオ市場に向けて、PC技術とオーディオマインドが融合したHDメディア・コンピューター「HDC-7」、CDやiPod専用ドックなどの再生機能に特化したスタイリッシュな1BOXオーディオ「X-T1DSC」、大容量80GBハードディスク搭載の単品HDDコンポーネント「BR-NX8」、さらに周辺機器としてiPodとオンキョーコンボの連動を実現するiPod専用RI Dock「DS-A1」やPCの音楽ファイルをお手持ちのオーディオに無線でデジタル伝送する「UWL-1」など、新たな戦略商品を発売しました。

### 団塊世代に向けたハイファイ品質製品を新発売! スピーカー内蔵TVラックもラインナップ強化!

オンキョービュアオーディオのハイパワーデジタルアンプとノイズ除去技術を搭載したコンパクトハイファイオーディオ「CR-D1」、世界で絶賛されたスピーカー「D-312E」の技術を継承したコンパクトスピーカー「D-D1E」、「D-112E」を発売しました。さらに、<HDサウンド>を実現するスピーカーシステム「D-908E」とフラッグシップサブウーファー「SL-D1000」も発売し、オーディオ専門誌でも受賞を果たしております。また、独自技術\*を搭載し、業界に先駆けて発売したスピーカー内蔵TVラック「AV GATE」シリーズは、「CB-SP1200XT」や「CB-SP920C」など、さらにラインナップを強化しました。

\*フロントLR、センタースピーカーの3chを同一線上に配置し、自然な音の移動感を実現。(特許出願中)

### 『オンキョーマーケティング株式会社』社名をあらため新体制発足!

国内販売子会社であるオンキョーリップ株式会社は、社名を『オンキョーマーケティング株式会社』にあらため、新体制を発足させました。一般のお客様には、AVC製品などのインターネットショップ、高品質音楽配信サイト、各界の著名人達のインターネットプロダクションサイト、他にもオンラインゲームサイトなど、趣向をこらしたさまざまなサイトを運営しています。法人のお客様には、デジタルホーム市場向けのインターネット配信やWeb管理を中心とするSI (System Integration) 事業をスタートしました。また、オリジナルパーツや設計生産ノウハウを生かせるOEM事業を新たに発足し、積極的に展開しています。

### 高品質音楽配信サイト「e-onkyo music」がさらに拡大!

「ジャズ、クラシックを中心とした、CDの音質レベル以上の高品質音楽コンテンツのWMA Losslessフォーマット配信」という、特徴ある音楽配信を展開しているe-onkyo music は、森昌子やチュールリップ、ペドロ&カプリシャス、倉本裕基の楽曲など、「後世に伝えたい名曲をこだわりの音質でお届けする」というコンセプトで、ジャンルの枠を拡大し幅広い名曲も配信を始めました。また、ユニバーサル クラシックス&ジャズからの楽曲供給により、配信楽曲数は3万曲以上となり、米国のHD音楽配信をリードするMusicGiants, Inc. とともに、HDコンテンツを中核とした戦略的事業展開について協議していくことで合意しました。

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前中間期 平成17年9月30日現在	当中間期 平成18年9月30日現在	前期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	20,249	21,278	21,813
現金及び預金	7,919	7,572	8,611
受取手形及び売掛金	6,131	6,920	8,229
たな卸資産	5,128	5,671	3,973
その他	1,069	1,114	999
固定資産	21,639	18,345	18,900
有形固定資産	18,394	16,618	16,720
建物及び構築物	1,960	1,818	1,900
土地	4,503	4,503	4,503
賃貸用建物	3,566	2,638	2,679
賃貸用土地	6,597	5,946	5,946
その他	1,766	1,711	1,690
無形固定資産	651	335	333
連結調整勘定	363	—	—
その他	287	335	333
投資その他の資産	2,593	1,392	1,846
資産合計	41,889	39,624	40,713

科目	前中間期 平成17年9月30日現在	当中間期 平成18年9月30日現在	前期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日現在
<b>負債、少数株主持分及び資本又は純資産の部</b>			
流動負債	12,786	14,132	14,607
支払手形及び買掛金	2,497	3,084	4,765
短期借入金	7,367	7,255	6,332
その他	2,920	3,792	3,508
固定負債	20,920	17,990	17,966
長期借入金	11,597	9,415	9,322
その他	9,322	8,575	8,643
負債合計	33,706	32,123	32,573
少数株主持分	172	—	172
資本金	1,476	—	1,476
資本剰余金	732	—	732
利益剰余金	1,496	—	1,538
土地再評価差額金	4,849	—	4,476
その他有価証券評価差額金	26	—	△ 131
為替換算調整勘定	△ 573	—	△ 124
自己株式	△ 0	—	△ 0
資本合計	8,009	—	7,967
負債、少数株主持分及び資本合計	41,889	—	40,713
株主資本	—	2,935	—
資本金	—	1,476	—
資本剰余金	—	732	—
利益剰余金	—	726	—
自己株式	—	△ 0	—
評価・換算差額等	—	4,363	—
土地再評価差額金	—	4,476	—
為替換算調整勘定	—	△ 112	—
少数株主持分	—	201	—
純資産合計	—	7,500	—
負債、純資産合計	—	39,624	—

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	当中間期 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	前期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
売上高	19,491	19,890	45,050
売上原価	13,801	13,630	32,426
売上総利益	5,690	6,260	12,623
販売費及び一般管理費	6,234	5,911	13,143
営業利益又は営業損失(△)	△ 543	348	△ 519
営業外収益	159	130	350
営業外費用	260	300	457
経常利益又は経常損失(△)	△ 643	178	△ 626
特別利益	94	6	823
特別損失	137	996	765
税金等調整前中間(当期)純損失(△)	△ 686	△ 811	△ 568
法人税、住民税及び事業税	△ 17	168	185
法人税等調整額	△ 108	△ 282	132
少数株主利益	2	9	7
中間(当期)純損失(△)	△ 562	△ 708	△ 894

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	当中間期 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	前期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,590	△ 1,338	989
投資活動によるキャッシュ・フロー	171	△ 501	1,800
財務活動によるキャッシュ・フロー	361	911	△ 3,234
現金及び現金同等物に係る換算差額	120	△ 110	199
現金及び現金同等物の増加額	△ 936	△ 1,039	△ 245
現金及び現金同等物の期首残高	8,856	8,611	8,856
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	7,919	7,572	8,611

中間連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成18年4月1日から平成18年9月30日まで								
平成18年3月31日 残高	1,476	732	1,538	△ 0	3,747	4,220	172	8,140
中間連結会計期間中の変動額								
剰余金の配当			△ 103		△ 103			△ 103
中間純損失(△)			△ 708		△ 708			△ 708
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額						143	28	172
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	△ 812	—	△ 812	143	28	△ 639
平成18年9月30日 残高	1,476	732	726	△ 0	2,935	4,363	201	7,500

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前中間期 平成17年9月30日現在	当中間期 平成18年9月30日現在	前期 平成18年3月31日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	16,706	16,168	14,584
現金及び預金	6,156	5,369	6,739
受取手形及び売掛金	7,542	7,643	4,942
たな卸資産	1,166	1,107	1,057
その他	1,842	2,047	1,844
固定資産	25,039	22,639	23,109
有形固定資産	15,261	13,622	13,713
建物及び構築物	1,050	984	1,016
土地	3,846	3,846	3,846
賃貸用建物	3,566	2,638	2,679
賃貸用土地	6,597	5,946	5,946
その他	202	208	224
無形固定資産	159	189	208
投資その他の資産	9,618	8,827	9,186
関係会社株式及び出資金	8,238	8,478	8,238
繰延税金資産	831	588	726
その他	1,215	426	888
投資損失引当金	△ 666	△ 666	△ 666
資産合計	41,746	38,807	37,693
<b>負債、資本又は純資産の部</b>			
流動負債	13,091	11,795	11,983
支払手形及び買掛金	4,896	3,597	4,212
短期借入金	6,115	5,892	5,533
製品保証引当金	259	192	216
その他	1,820	2,112	2,021
固定負債	19,320	17,259	16,548
長期借入金	10,668	9,359	8,580
長期預り保証金	3,982	3,598	3,600
再評価に係る繰延税金負債	3,454	3,198	3,198
その他	1,214	1,103	1,168
負債合計	32,411	29,055	28,532
資本金	1,476	—	1,476
資本剰余金	732	—	732
利益剰余金	2,248	—	2,607
土地再評価差額金	4,849	—	4,476
その他有価証券評価差額金	26	—	△ 131
自己株式	△ 0	—	△ 0
資本合計	9,334	—	9,161
負債、資本合計	41,746	—	37,693
株主資本	—	5,275	—
資本金	—	1,476	—
資本剰余金	—	732	—
利益剰余金	—	3,067	—
自己株式	—	△ 0	—
評価・換算差額等	—	4,476	—
土地再評価差額金	—	4,476	—
純資産合計	—	9,751	—
負債、純資産合計	—	38,807	—

中間損益計算書

(単位：百万円)

科目	前中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	当中間期 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	前期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
売上高	18,540	20,636	35,934
売上原価	14,701	16,499	28,667
売上総利益	3,839	4,136	7,266
販売費及び一般管理費	4,045	3,744	8,007
営業利益又は営業損失(△)	△ 206	392	△ 741
営業外収益	146	1,379	388
営業外費用	207	168	409
経常利益又は経常損失(△)	△ 267	1,603	△ 762
特別利益	20	2	752
特別損失	112	954	354
税引前中間純利益又は税引前中間(当期)純損失(△)	△ 359	650	△ 364
法人税、住民税及び事業税	18	116	40
法人税等調整額	△ 135	△ 29	△ 147
中間純利益又は中間(当期)純損失(△)	△ 242	563	△ 257
前期繰越利益	2,486	—	2,486
土地再評価差額金取崩額	—	—	373
中間(当期)未処分利益	2,243	—	2,602

中間株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

平成18年4月1日から平成18年9月30日まで

	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成18年3月31日 残高	1,476	732	2,607	△ 0	4,816	4,344	9,161
中間会計期間中の変動額	—	—	—	—	—	—	—
剰余金の配当	—	—	△ 103	—	△ 103	—	△ 103
中間純利益	—	—	563	—	563	—	563
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額	—	—	—	—	—	131	131
中間会計期間中の変動額合計	—	—	460	—	460	131	590
平成18年9月30日 残高	1,476	732	3,067	△ 0	5,275	4,476	9,751

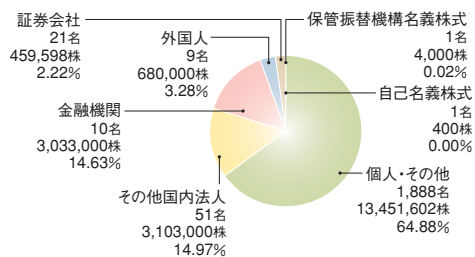
※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(平成18年9月30日現在)

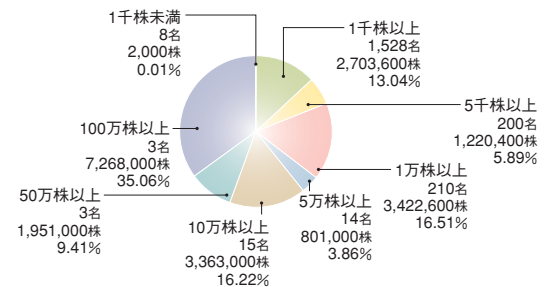
- 発行可能株式総数 80,000,000株
- 発行済株式の総数 20,731,600株
- 単元株式数 1,000株
- 株主数 1,981名
- 大株主

株主名	持株数	出資比率
大脚直人	4,000千株	19.29%
テクノエイト株式会社	2,000	9.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,268	6.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	788	3.80
オンキヨー従業員持株会	663	3.19
オーエス・ホールディング株式会社	500	2.41
日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	458	2.20

所有者別株主分布状況



所有株式数別分布状況



アンケートのお願い

当社は、株主の皆様とのコミュニケーションを充実させていきたいと考えております。是非、下記のアンケートへのご協力をお願いいたします。

アンケート項目

- ◆ 株主様 特別プレゼントをご希望されますか。
  - はい
  - いいえ
- ◆ 当社への投資判断に関する情報の収集手段は何でしたか。(複数回答可)
  - 新聞
  - 雑誌・専門誌
  - インターネット
  - 証券会社
  - 知人の意見
  - その他( )
- ◆ 当社ホームページの閲覧など、インターネットをご利用することができますか。
  - はい
  - いいえ
- ◆ 興味深かったページ(コーナー)に○をつけてください。(複数回答可)
  - 表紙
  - 代表者あいさつ(P1)
  - 経営指針・財務ハイライト(P2)
  - 経営者インタビュー(P3~P6)
  - コンサートの紹介&プレゼント(P7)
  - コーポレートプロフィール(P8)
  - 営業の概況(P9~P10)
  - トピックス(P9~P10)
  - 財務諸表(P11~P13)
  - 株式の状況(P14)
- ◆ 「ビジネスレポートにて今後充実して欲しいコーナー」ならびにその他、ご意見、ご希望があればお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

株主様 特別プレゼント「ニューイヤー ガラコンサート」チケットプレゼント!! の応募方法

上記の株主アンケートにお答えいただいた株主様の中から抽選で5組(10名)様に「オンキヨー&インテル ニューイヤー ガラコンサート」のペアチケットをプレゼントいたします。

- ・コンサートの詳細は、P7のご紹介または当社ホームページをご参照ください。
- ・締切り：2006年12月25日必着
- ・当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

キリトリ線

郵便はがき

5 7 2 - 8 7 9 0

料 金 受 取 人 払

寝屋川局  
承認

123

差出有効期間  
平成19年3月

31日まで

(切手不要)

大阪府寝屋川市日新町2番1号

オンキヨー株式会社

総務部 株主アンケート係行



キ  
リ  
ト  
リ  
線

フリガナ		年 齢
ご芳名または 貴社名		歳
ご職業	男性	女性
ご住所 (〒      )		

(プライバシー保護シールは点線の枠内にお貼りください。)

#### 【個人情報の取り扱いについて】

本アンケートにおいて株主様にご記入いただいた個人情報につきましては、当社の今後のIR活動の参考目的にのみ使用し、第三者への開示、譲渡および貸与することは一切ございません。

●iPodは、米国およびその他の国々で登録されたアップルコンピュータ株式会社の登録商標または商標です。●ユニバーサル ミュージックロゴは、ユニバーサル ミュージック株式会社の登録商標または商標です。●MusicGiants、MusicGiantsロゴは、米国 MusicGiants, Inc の登録商標または商標です。●IMAGINATIVE SIGHT&SOUND、HD Media Computer、HD メディア・コンピューター、VLSC、e-onkyoは、オンキヨー株式会社の登録商標または商標です。

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 6月中  
剰余金の配当の基準日 期末配当金 3月31日  
単元株式数 1,000株  
公告掲載新聞 日本経済新聞  
株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社  
同事務取扱所 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
(郵便物送付先) (〒168-0063)  
(電話照会先) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
フリーダイヤル (0120-78-2031)  
同取次所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店  
日本証券代行株式会社 本店および  
全国各支店

(お知らせ)

住所変更、単元未満株式の買取請求、名義書換請求および配当金振込み指定に必要な各用紙のご請求は株主名簿管理人のフリーダイヤル (0120-87-2031) で24時間受付しております。また株主名簿管理人のホームページからもご請求いただけます。  
([http://www.chuomitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html))

# オンキヨー株式会社

〒572-8540 大阪府寝屋川市日新町2番1号

TEL : 072-831-8000 (代)

<http://www.jp.onkyo.com/>